

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第10回）  
兼 医技薬系教員との情報・意見交換会

日時：令和3年3月30日（火）9時-10時

（教員等協議会（含 医技薬系教員））飯本、横山、伊藤、安岡、加藤、細田  
（若手研）迫田、片岡、中畷、辻、廣田

概要：

≪現状共有≫

■横山（技師）：放射線技術学会（4月、10月、地方会11回（旅費不要）、国家試験2月。学生から低線量専研セッションへの参加希望があった。

■伊藤（技師）：分校、現在1年生のみ。本校は大田原、保健物理専門教員がいない。

■加藤（薬剤師）：4年生2月頃～6年生5月までが研究期間、その間病院薬局実習あり。薬学としては、放射線はマイナー領域。研究に積極的な学生はそもそも少ない。放射線測定や環境の話題よりは薬と関連の現場に興味が強。院生進学希望者は化学合成系または分子生物学系。5年生の初期には研究発表はつらく、6年生の6月以降は国家試験へ目移る。薬学会では6年生3月（卒業前）に発表するケースが多い。

■細田（技師）：技術科学領域。一部に医学部、工学部に興味がある学生も。影響学会を中心に活動→ここ10年で保物学会にも。放射線治療、核医学、MRIなどに興味。6月の学会発表参加は学部生には無理。学生の動機づけとして、11月影響学会（卒研11月末に発表会の準備の位置づけ、アウェー感あり）が使いやすい。大学として臨床実習のスケジュール変更の議論があり、学会の参加に関する考え方は若干流動的。病院に留まらない就職スコープ（研究所、企業など）が広がるため、保物学会への参加メリットはある。

■安岡（薬剤師）：放射線管理研究室、3名/学年×3。4年生8月から研究開始→5年生の6月保物、7月RI発表会、11月影響学会、12月管理学会が選択肢。ラドンが主なテーマ。学会発表を動機づけ、研究室として推進中。学生の発表で保物学会のレベルが下がる（？）の噂がハードルに。

≪若手からの質問≫

Q1：保物学会が第一の学会になりにくい感触。保物学会ではない教員視点で、どのようなアプローチがあり得るか？

A1：（技師）治療、撮影が主流。保物の存在が知られていない。管理、線量評価が「保物」であるとの見せ方。開催、発表時期は重要。11月前半は卒論と連動になるのでかなりよい。12月時期は国家試験との兼ね合いで発表には遅い。

A1：（薬剤師）投与後の放射線、患者や家族の被ばくなどは興味あるかも。放射線測定にはあまり興味は向かないかも。5月、6月、12月の学生発表は難しい。2-3月がターゲットか？

Q 2 : 医薬品はわかりやすい共通項か。正当化、最適化など、薬学会に留めず、保物的なアプローチも組みわせる、はあり得るか？

A 2 : (薬剤) 合成チームが少し絡む可能性あり。放射線影響 (横浜薬科、都立大あたり) の話題は少しみられる。R I 研究発表会で扱ってきたケースはあるかも。実験ベースではなく、アイデア提案研究が許されれば学生参加の可能性はある。

A 2 : (薬剤) そのような被ばくを研究した、は必要だがこれまではあまりみたことはない。

Q 3 : 製薬放射線カンファレンスへの参加は？

A 3 : 製薬メーカー主体、学生向けの発表の場ではない印象。

Q 4 : 学生発表練習の場を若手研、学友会が企画すれば参加の可能性はあるか？

A 4 : 発表練習は各大学でできる。むしろ、広い視野、知らないメンバーの前での発表機会に、刺激と動機づけ、経験値の向上の意味合いはある。

A 4 : かつて学友会 (12 月) 主催の発表機会があったこともある。学生のみならず、広いメンバーで「研究」について語り合う機会はとてもよい。11 月がベストか、ハイブリッドが便利。

A 4 : 学生だけの会でもよいが、まだ公式データではないケースもあるので情報の扱いに気をつけて。会の趣旨、位置づけも明確に。守秘義務問題 (手続きの確認) も。

C 1 : 薬学向けには「利用」も含めないと厳しいか？ 他の学会とコラボした形もあり得るか？

C 2 : 核医学での放射性医薬品の患者さんの線量管理については長崎大学が発表している。長崎、広島、福島医科大のカンファレンスで数は少ないが見かけるときがある。

C 3 : 岡山大学の人形峠関連の研究もある。

C 4 : 線量評価をやろうとしている先生はいる。ただし保物学会はハードルが高いイメージが否定できない。

次回開催は、メールで調整する。

以上